

# 製造業をご支援するSAPの新しい世界 SAP Digital Transformation

「2025年の崖」を見据え、世界各国のSAPユーザー企業がビジネスの更なる飛躍に向け既存SAP資産を活用する中、今後「SAP S/4HANA®」は日本企業にどのようなインパクトを与えるのか？ 2019年5月に開催した「富士通フォーラム2019」にて、SAPジャパン株式会社 バイスプレジデント 製造産業統括本部 統括本部長 川崎徹氏より「製造業をご支援するSAPの新しい世界 SAP Digital Transformation」をテーマにご講演いただきました。



SAPジャパン株式会社  
バイスプレジデント  
製造産業統括本部 統括本部長 川崎 徹 氏

## “インテリジェンス” 時代へ突入

1960年代のメインフレーム&PC、1990年代のクライアントサーバ&インターネット、2000年代のクラウド/モバイルデータ&ビッグデータ、そして現在、インテリジェント技術へ。

アーキテクチャが変化し続け、世の中も急激に変動する現在、SAP社はどのようにお客様のビジネス貢献を実現するのか、SAP社が描く新しい世界を本講演でご紹介いただきました。

1972年、SAP社創立。当初、分散型でコンピューティングされていた時代にSAP社は統合的アプリケーションの重要性にいち早く着目し、その仕組みを提供するSAP社をスタート。これまでの約50年間、各業界の動向を確実に捉え、お客様へのビジネス貢献を第一に様々なソフトウェアを開発し、世の中に発表してきました。

「我々SAPは、クライアントサーバ型が主流だった時代からソリューション開発を行い、製造業を含む各業界のお客様を長年に渡りご支援しています。1970年代からビジネススタイルの変化に合わせてIT技術も進化し、2019年現在、グローバルビジネスの拡大と

共に、ERPもかつてないスピード感が求められています。それに対応するには、やはりパフォーマンスを出す必要があります。基幹系システムで業務を行い、トランザクションデータが溜まっていくという従来の方法に加えて、溜まったトランザクションデータやIoT他外部システムから得られたデータをもとに、機械学習やAI等の技術を活用してより従業員の生産性を高めていくという要素が必要と考え、そのニーズを捉えてリリースしたのが『SAP S/4HANA』です。日本市場はSAPグローバルでも非常に重要視されており、今後『SAP S/4HANA』の国内導入をさらに加速していきます。」と川崎氏は語ります。

2019年4月、ドイツで開催された「ハノーバーメッセ2019」では、製造業における「SAP S/4HANA」を使った新しい生産管理のあり方が紹介され、注目を浴びました。さらにSAP社は、新製品を提供するだけでなく、スタートアップ企業と連携しながら、お客様のビジネス効果の向上を追求し続けています。

■関連動画「[Hannover Messe 2019](#)  
[ドイツ メルケル首相とスウェーデン ロベーン首相が SAP プースを訪問、Design to Operate を体験」](#)

URL: <https://youtu.be/fE0IFB5GWOA>

## Intelligence Enterprise : エンドツーエンドのプロセスをカバー

SAP社は時代の流れを常に素早くキャッチし、ビジネスプロセスをベースとした、これまでにない付加価値を探求し続けています。川崎氏はSAP社の新しい発想を紹介しました。

「Design to Operate (設計から運用まで)。設計から始まり、調達、製造、製品出荷、納品、そしてその後のアフターサービスも含めたビジネスプロセス (図1 黄色部分) に加え、Lead to Cash (案件化から売掛回収まで) (図1 青色部分) のプロセスも合わせて、製造業のお客様に有効な仕組みを考えています。Leadからスタートし、最後の入金/債権回収までのビジネスプロセスを図で示しています。各工程において、クラウド技術によるデジタルトランスフォーメーションが当然の環境となっていますが、SAPの特長としては、その全てに外部データと内部データを合わせたデジタルツインを実現することでお客様の業務をご支援します。」

川崎氏はさらに続けます。

「そもそも設計開発を行う製品のデマンドはどれくらい見込めるのか?最近ではクラウド上でのアプリケーションを活用することでデマンドを予測シミュレーションしながら製品の設計開発を行うことができます。また、製造した際、調達部材をグローバルに供給できるかも、自社の調達実績や外部の市況情報などが格納されているクラウドデータを活用しながら妥当性を含めた製品の設計開発が可能となります。このように、お客様のビジネスをクラウドやデジタルツインで次世代の生産管理に繋げていくことが、従来と大きく異なるところです。そして一番右のOperate Productは“売って終わりのビジネスは変えていきましょう”ということを示しています。製品サポートの面でも、クラウド技術を使って故障を事前に防止

したり、メーカー側からコントロールできる仕組みなども提供しています。」

川崎氏は、日本の製造業のビジネス向上をお客様と共に目指し、本来のものづくりの強さを支援したいと述べます。

## デジタル時代のリアルタイムマネジメント

SAP社は、さらにグローバルマネジメントにも長年取り組んでおり、グローバル経営を支えるソリューションも展開しています。

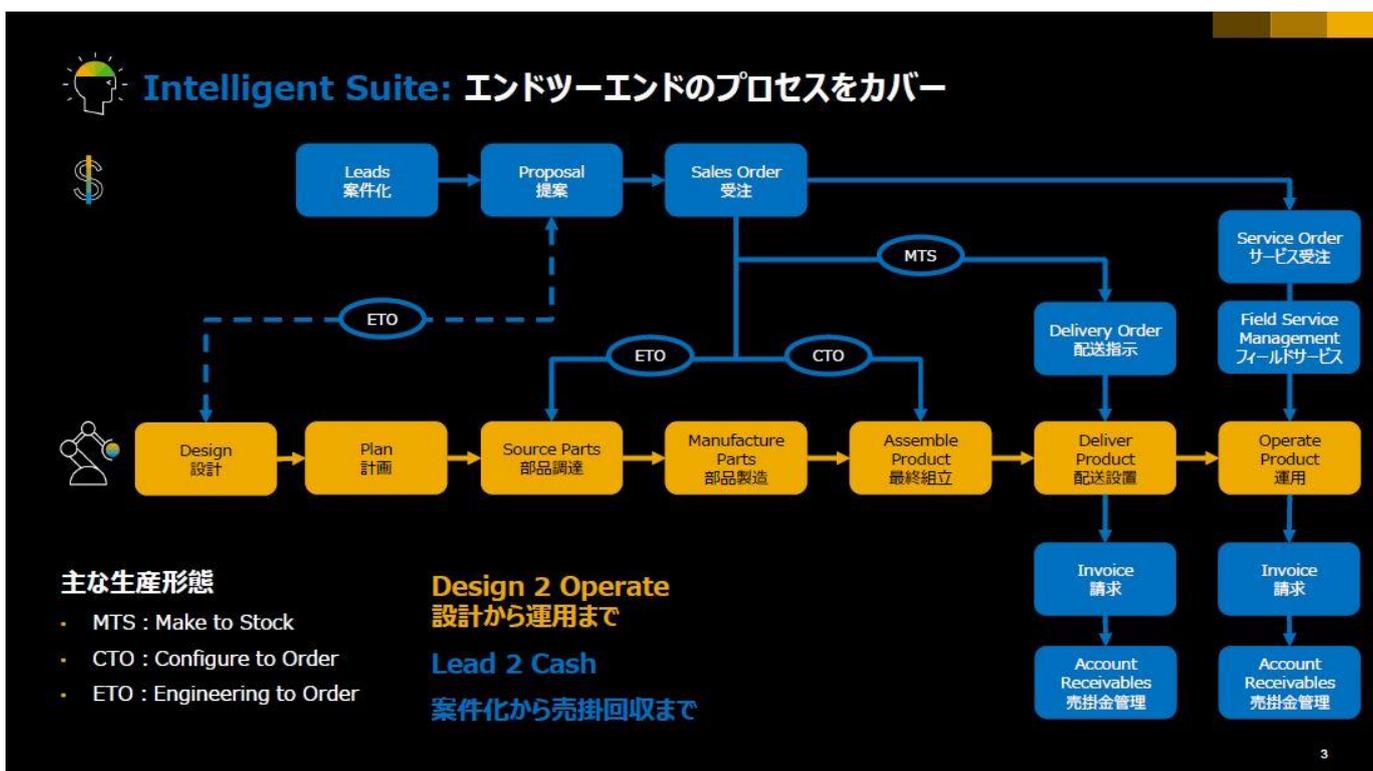
「最近、日本企業のCFOとの間で話題になるのが、予算の着地管理など、事業の未来のフォーキャスト管理です。投資家の期待値をコントロールし、株価を適正に維持するために、フォーキャストの精度を高める必要がありますが、近年、M&Aの加速により、買収した企業も含めた事業体を一つのインスタンスで管理することが難しく、課題となっています。『SAP S/4HANA』はセントラルファイナンス機能を持っており、既存ERPから上がってくるデータをセントラルファイナンスに集めて連結経営管理、資金管理、予算管理、不正管理などを行うことで企業内のガバナンス力を高め、グローバル経営を強力にサポートします。」と川崎氏は説明します。

SAP社は、SAP社自身が試行錯誤を重ねて培ったグローバル経営の経験とノウハウを活かし、精度の高いフォーキャストを導くソリューションを開発し、提供しています。

■関連動画 [「SAP Digital Boardroom で SAP CFO が推進するリアルタイムビジネス」](https://youtu.be/F04DNZr2NkA)

URL: <https://youtu.be/F04DNZr2NkA>

【図1】 (出典：SAPジャパン株式会社)



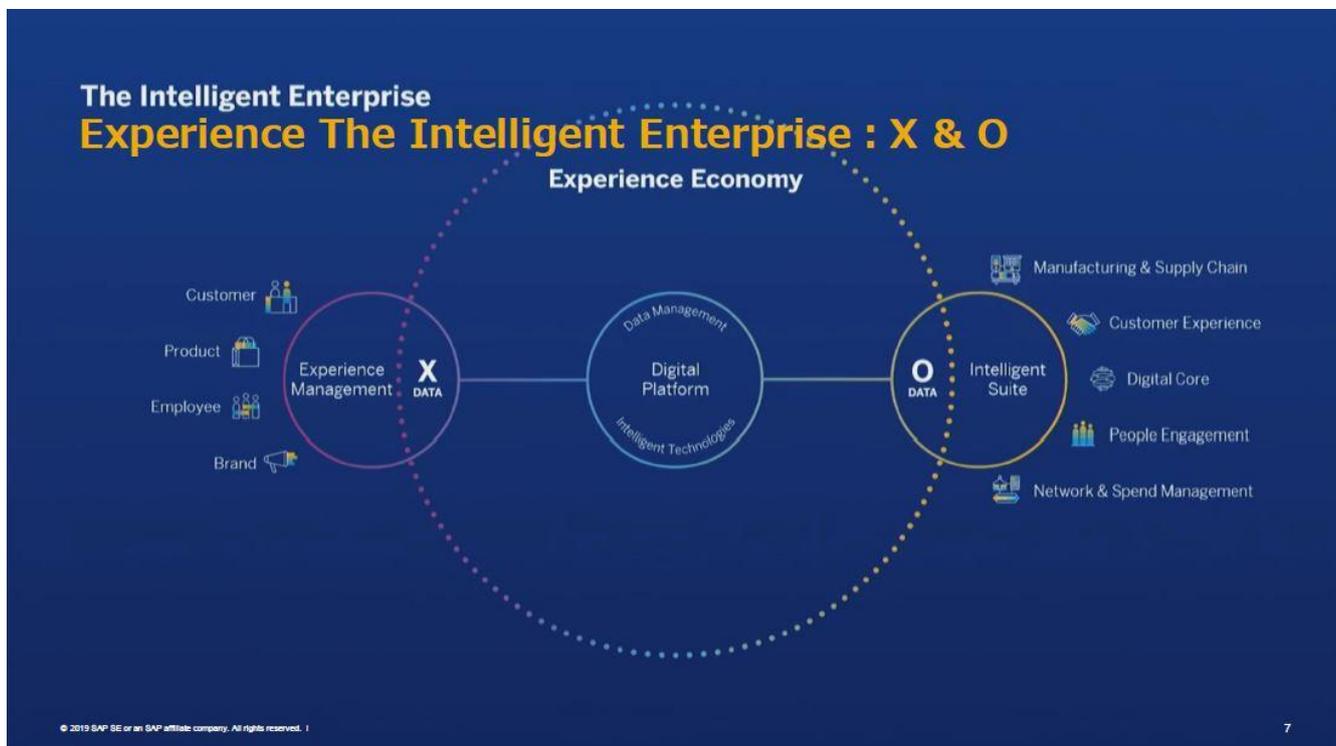
## Experience The Intelligent Enterprise: X&O

2019年5月7日（火曜日）～9日（木曜日）、米国フロリダ州オーランドでSAP社最大のイベント「SAPPHIRE NOW®」が開催され、約3万人が来場しました。川崎氏はイベントで発表されたメインピックを紹介しします。

「まず、従来のERPと異なるところ、それは、AIを利用して次世代の基幹の仕組みを提供すること。図2右側のOデータ：Intelligent Suite（ERPから出る会計や収益などのデータ）。そして昨年発表したのが図2中央の領域で、SAP Cloud Platformを活用しながらSAP Leonardoを中心にした社外データをDigital Platform上に乗せ、社外データと社内データを融合させるところに価値を追求すること（Oデータ+Digital Platform）。さらに今年、『SAPPHIRE NOW』の場で、Customer Experienceのデータ（Xデータ）活用について発表しました。Experienceの『X』とOperationの『O』で、『X+O』と呼んでいます。」

SAP社は、基幹データ、物流、Industry4.0で得られるOデータに加え、顧客や従業員が何を考えているのか、といったExperience ManagementによるXデータを利用して、デジタルトランスフォーメーションを加速します。

【図2】（出典：SAPジャパン株式会社）



## Qualtrics社のノウハウを加え、Experience Managementを強化

SAP社は新しいExperience Management分野の成長に向け、2019年1月、Experience Managementソフトウェア分野のパイオニア Qualtrics社を買収しました。

「Qualtrics社が持つXデータとSAPのOデータを組み合わせることで、顧客や従業員、製品、ブランド等の管理を向上させることができます。国内ではまだQualtrics社の展開は進んでおらず、今後日本市場でも大きく活性化したいと、活動をスタートしました。」

SAP社はこれからも積極的に企業統合を進め、お客様のビジネス効果をいかに出していくのか追及し続けると、川崎氏は語ります。

## 業界別に徹底的な分析を実施

講演最後、川崎氏はSAP社の展望を紹介し、締めくくりました。

「SAPはデジタル時代に合わせて、業界別に徹底的な分析を行っています。例えば、ハイテク産業で増加するサブスクリプションのビジネスモデルも分析し、新しい仕組みを提供していきます。また、富士通が得意とする受注型生産についても『SAP S/4HANA』の新しい仕組みを提供するなど、実行現場と連携する生産管理を実現し、今後もお客様のビジネスの成長をグローバル規模で協力にご支援してまいります。」

■関連動画 [「SAP Entitlement Management」](#)

URL: <https://youtu.be/5fm1vIM2XbA>

### お問い合わせ先

富士通ERPプロモーション事務局 E-mail : [contact-erp-promo@cs.jp.fujitsu.com](mailto:contact-erp-promo@cs.jp.fujitsu.com)

富士通株式会社 ERPソリューション事業本部 戦略企画統括部

〒108-0075 東京都港区港南1-2-70 品川シーズンテラス

※記載の会社名、商品名等は、各社の商標または登録商標です。  
 ※記載されている情報は予告なく変更することがあります。  
 ※記載の内容は2019年6月現在のものです。